

フードバンク + 隅田川医療相談会が一つになりました。

小さな声を集める・伝える



June 2022 Vol.7 [NEWS]

一般社団法人あじいる

つぶやき





この稿を書いている連休中、上野公園は、光と新緑のシャワーで、久しぶりに集まった人々を幸せにしているかのように見える。そんな中、上に石を置いた新聞紙がたくさん並んでいるのは炊き出しの順番取りだ。コロナも収束に近付いたと見做され、はしゃいでいるような世界で、どれだけの人が取り残されているのだろうと思う。たとえコロナが去っても忘れてはならないことは、みな等しく危険と恐怖にさらされたコロナ禍において、医療は平等に与えられなかったということだ。

今号で仲嶺さんが書いてくれているように、コロナが猛威を振るっていた今年2月、東京都では高齢者や住所のない人が入院できず療養施設も利用できずに、生命の危険にさらされていた。事前に都議会議員さんを通して保健所に発熱者への対応をお願いしていても、相談会当日救急車を呼ぶと、受け入れ可と教わっていた3つの病院にはすべて断られ、救急隊員からは、23区内の病院には数時間探してもほぼ入れないと教えられた。街の無料PCR検査で陽性が判明した無保険の労働者の方は、医療機関の初診料が払えずに困っていた。



医療相談会で設置している発熱者専用テントにて救急隊員と話し合いが続いた



2022年2月の相談会に、「コロナ感染の不安があるから検査をしてほしい」というAさんがやってきました。医療スタッフが行った抗原検査の結果は「陽性」。Aさんは山谷の簡易宿泊所で寝泊まりしているため、自宅療養をする場所はありません。その晩はあじいるが管理する倉庫で一時的に待機してもらい、翌日、あじいるスタッフで宿泊施設を探すことになりました。

私たちが頼りにしていたのが、東京都が1月から開設している【感染拡大時療養施設】でした。ここは、主に無症状の陽性者が療養できる場所として準備されており、申し込み対象者の条件として、

ア 都内在住の方

イ 新型コロナウイルス感染症の症状が無症状もしくは重症化リスクのない軽症の方

ウ 高齢者や子供など同居家族がおり、家庭内感染を防ぐ必要のある方

エ 学生寮など共同生活を送る施設内感染の可能性のある方

が挙げられていました。Aさんは無症状であったため、宿泊手続きをするべく施設に電話をかけました。ところが、先方は「受け入れられない」とのこと。その理由は、「65歳未満が対象の施設だから」でした。私たちは「そんな条件はどこにも書いていない」と伝えましたが、「ホームページに書いてあります」ということで、混乱する事態となりました。「どこに書いてあるのか教えてください」と尋ねると、「実は東京都が用意している【宿泊療養施設】の条件が、【感染拡大時療養施設】にも適用されるんです」と教えられました。

このとき、東京都は感染者の療養施設として、【感染拡大時療養施設】と【宿泊療養施設】の2施設を用意していました。たしかに、後者の案内ページには、申込条件に「65歳未満であること」が挙げられています。しかしながら、それが【感染拡大時療養施設】にも該当するとはどこにも書いてありません。そのことを伝えても、「上から言われているので…」「65歳以上の方に紹介できる場所はないんです」と、それ以上どうしようもないままやりとりは終わりました。

その後も、電話先で紹介された発熱相談センターや、自宅療養サポートセンター（うちさぼ東京）、保健所などに問い合わせましたが、いずれも「医療機関しか紹介できない」「高齢者向けの宿泊施設はない」という返答で、保健所にいったっては「倉庫にいてもらうしかない」という対応でした。

つまりこれは、「65歳以上の陽性者は、自宅療養か入院の2択しかない」ということです。実際に、電話口でもこのように言われました。その理由として言われたのは、「高齢者は無症状であっても、急変するリスクが高い。現時点では療養施設に医療スタッフを十分に配置できておらず、急変した時に対応ができない」ということでした。

途方に暮れた私たちでしたが、その後偶然にも、シェルターを管理している支援団体と連絡をとりあうことができ、Aさんは療養先を見つけることができました。「誰にも感染させたくない」と言っていたAさんのほっとした顔を忘れることはできません。しかしながら、一連の公的機関とのやりとりでは何も解決せず、最後は民間の団体に助けられたという現実にはショックが大きく、行政の対応策に対して疑問を持たざるを得ませんでした。

この一件から、私たちは「コロナ社会から取りこぼされている人々」がいることを痛感しました。まず、高齢者です。上記の対応でも言われた通り、65歳以上の高齢者が陽性者になったとき、高齢者は自宅療養か入院しかありません。しかしながら、高齢者は単身の人も多く、単身ではなかったとしても、同居家族も高齢だったり基礎疾患者がいたり、Aさんのように複数人で共同生活をしていたりするなど、自宅療養が難しい人もいます。また、急変のリスクが高いからこそ、陽性になった際には見守りが必要な人たちですが、感染が拡大すると、病院も満床状態であったり、クラスターが発生して受け入れができなかったりするなど、誰もが入院できる状況でもありません。「高齢者が安心して療養できる場所が用意されていない」というのは、オミクロンで亡くなった陽性者の約9割が70代以上の高齢者という現実も踏まえると、非常に由々しき問題です。

今回直面した第6波のように、「入院できる病院がない」となると、彼らに残されているのは自宅療養です。しかし、この選択肢すらとれない人たちがいます。Aさんのように、簡易宿泊所や集団施設に暮らす人、ネットカフェで寝泊まりしている人、路上に暮らす人たちです。彼らが暮らす「自宅」は、トイレやキッチン、お風呂が共同であることがほとんどで、完全に誰とも接触せず生活することはできませんし、陽性者であることが周囲に伝われば、最悪の場合、体調が悪い中で自宅すら失う可能性があります。

8月の相談会でも、路上生活者のBさんに陽性結果が出たことがありました。彼は病院に運ばれましたが、「入院することはできない」とそのまま「自宅」に帰されました。つまり、陽性であり、しかもひどく体調が悪いのに、路上で過ごすという選択肢しか与えられなかったということです。入院できないなら自宅療養しかない。しかし、その「自宅」がない人たちがいる。けれども、その人たちが安心して療養できる場所は一切に用意されない…二人に降りかかった出来事は、このコロナ社会が無視している人々を浮き彫りにしたように思います。

行政は、「感染者のために療養施設を用意しました」「ここでは快適に過ごせます」と聞き心地のいい言葉を並べながら、「誰にも感染させないために！」と謳い続けてきました。しかし、行政が用意したこの「セーフティーネット」の網の目は大きく、ここからこぼれ落ちる人は確実に存在します。

この現実を、あじいるとして、隅田川医療相談会として、どのように社会に発信し、どのように働きかけることができるのか、議論を重ね、次の動きにつなげていきたいと、スタッフ一同強く感じています。



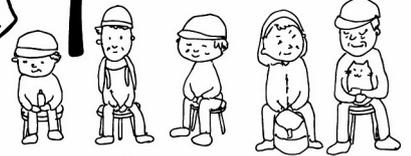
ひろがる

あじいるのせかい

気づいたら多国籍チームになってました

コロナ禍のスケッチ帖

隅田川医療相談会篇



毎月第3日曜日 午後2時

山谷堀広場でやってます

発熱テント

フットケア

はり・きゅう

しんさつ

おくすり

そうだん

さんぱつ

ほうりつ
アパート
せいかつ

けつあつ

おくすりが必要な人だけ
ここで待ちます

ごはん、3時スタート

おしかりが必要な人は番号札をください

のみもの

新型コロナで色々なことが停止した2年間は、仲間と一緒に田植えや花見、花火大会、稲刈り、忘年会「一緒に経験して、同じ風景を見て感じてご飯を食べる！」そういう瞬間がなくなった時期だった。

その中をただ、ひたすらくり返しくり返し続けた夜回りと医療相談会。

どんなことが起きそうか、起きたらどうするのか、医療や行政システムなど、取り巻く状況はどうなっているのか。

それぞれの現場で起きていることを寄せ集め、情報を共有しながらやってきた。

確かなことは「医療相談を止めない」ことだった。

なるべく変わらずに守りたい部分と、感染対策のために変える必要があった部分とを話し合った。やって上手くいかないことはいい方へ向くように変え、次にはまた元に戻したりもする。

何よりも、相談会に来た一人ひとりの話や身体の状態を丁寧に聞く・見ることを大切にしたい。問診も散髪も鍼灸も雑談も、個々の生活やその後のフォローへとつなぐきっかけになるから、切り離して考えない。

誰かと会っておしゃべりする場所でもある。

必要だから開きつづけたコロナ禍の「あじいる」。



フットケアもはじめました



アフリカ、中東、アジア、ヨーロッパ。

今の自分たちには何ができて何ができないのか。できない部分はどうしたら解決できるのか。他の団体や人のサポートもありながらやってきた。模索はまだ終わらない。

そして気づいたら、この2年の間に「あじいる」は9か国の多国籍チームになっていた。学生や医師の卵、普段は他で活動している仲間も増えた。

野宿、シェルター、ドヤ、アパート etc 暮らし方も生れた国や言語、関わり方もそれぞれ違う。違う者が五目飯みたいにごちゃまぜになって、同じ空の下でワーワーやるのが「あじいる」の医療相談会。

「場」の地熱に自分自身もあたためられてきた。山崎まどか



初参加の学生にバリカン指導もしてくれる T さんはフランス語圏の人。日本語で話かけてくれています。

昔髪ブースで活躍を続ける D さん。すっかりなじみになりました。

ムードメーカーの M 子さん この人がいるだけで元気になる

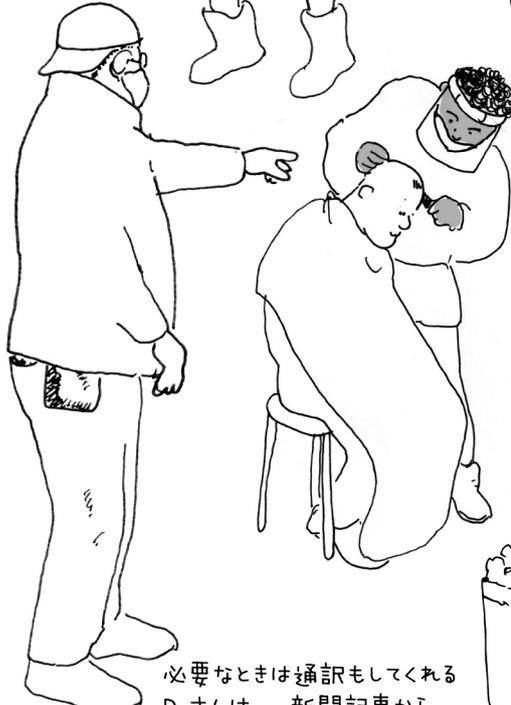


独自で夜回りもしている仲間。田植えや稲刈りの日は自国のデザートも差し入れもしてくれる R さん。



元料理人の G さん サモサやチャイも美味しいよ

「ほしのいえ」でも活動している M さん 午前中のご飯づくりでもテキパキ♪



必要なときは通訳もしてくれる D さんは、新聞記事から日本語を自力で習得。



食料ブース風景。別のコミュニティの仲間とも自然と一緒にする



設営・撤収も手際いい資源回収の日も大活躍



昨年の10月より活動に参加させていただきます。加藤結花です。普段は医療法人でソーシャルワーカーをしています。毎月土曜日の上野での夜回り、日曜日の相談会、月曜日のフォロー活動にできる範囲で参加しています。

関わりは始めたばかりのころ、路上生活の事をわからなかった私は『こんな自分が受け入れてもらえないのではないか、拒否されたり、不用意に傷つけたりしてしまうのでは』という心配がありました。医療相談会の皆さんが友人宅を訪ねるように、その方に合わせて気さくに話しかける姿に学び、声掛けしチラシを受け取ってもらえた時はほっとしました。過酷な路上環境で生活されている方に「お体のことや生活のことでお困りのことありませんか」とお聞きし緊急性が高くなければ、「よかったら明日、隅田川医療相談会でお待ちしています」とお伝えします。おじさんの方から話しかけてくれたり、心配な仲間を教えてくれたりして夜回りを助けてもらう事もありそんな気持ちのやり取りに気づけば私の心の緊張もほぐれていました。

翌日の隅田川医療相談会の相談ブースでは、大変な苦勞やつらい経験をよくお話して下さったなと思う事が多くあります。様々な目に見えない生きづらさから社会的に不利な立場に立たされてきたこと、それは決して個人の責任ではないと強く感じています。また、一人ひとりが唯一の存在であり、一度きりの人生を生きているのだということ、みんなが自分の幸福を追求していける社会でなくてはいけないと強く感じます。だれも孤立することなく当たり前に必要な医療や福祉を受けられるように個人にも社会にも働きかけていきたいです。

また、相談会のいろんな事情や立場を超えたごちゃ混ぜでフラットな空気感。職場でも家でもないこの場がなんだか愉快で心地いいです。何かしてもいいし、特別しなくてもいい雰囲気肩の力が抜け少し元気になれます。そういう意味で私自身も当事者の一人であって支援する側もされる側もなく、協働し響き合うこの場から、自己肯定感や自己有用感をもらっているのだと思います。お話してみたい方もまだまだ沢山いていつも楽しみにしています。私は月1回のスポット的な関わりですが、場所と時間を共にした方々はどうされているかな、ど元気でいてほしいなと想っています。

相談会の後も、日常的に繋がりが続けられ、その方の力が発揮できる機会や仕組みを作っている「あうん」の活動も魅力的でいつかお邪魔したいと思っています。私をこの場に繋いでくれた方がいるように、私もまた活動に誰かを誘って、緩やかな繋がり輪が広がったら素敵だなと思っています。

● 夜まわり・・・浅草：延べ183名 | 上野：延べ396名

医療相談会の前日に、浅草・上野の2カ所を回る。路上で寝ている方たちに、毛布と相談会開催のお知らせのチラシを配りながら、声をかけて回る。

● 医療相談会（毎月第3日曜日に隅田公園山谷堀広場にて開催）

【医療相談】 医師や看護師による健康の相談。血圧などの簡易的な検査も実施。

延べ27名（男性23名、女性4名）

年齢別 | 30代：1名 40代：2名 50代：5名 60代：6名

70代：9名 80代：2名 不明：2名

紹介状 | 計4件

【薬の相談】 上記の相談に基づき、内容によっては市販薬3日分配布。医療従事者が担当。

配布：延べ286名

【鍼灸】 体の不調をききとり、鍼灸師が施術を行う。

施術延べ54名

【散髪】 会話を心がけながら、髪の毛をバリカンで刈る。

延べ92名

【フットケア】 足を洗ったり爪を切ることが難しい人へのフットケア

延べ4名

【生活相談】 生活に関わる様々な問題や、生活保護申請・受給後の相談を受けている。

延べ29名

【アパート相談】 生活保護受給後のアパート転居等、住まいに関する様々な相談を受けている。

延べ2名

【法律相談】 債務整理その他、法律の相談を受けている。法律家が担当。

延べ2名

【炊事】 仲間のご飯をみんなで作る！

平均94食/月

● フォロー活動・・・延べ17名

相談に来た方たちの中で、生活保護の利用を希望する方や継続的な治療が必要な方の医療機関・福祉事務所への同行を行う。入院した方のお見舞いや、継続的な相談の対応も行う。

お米の配送状況（2021年10月～2022年3月）

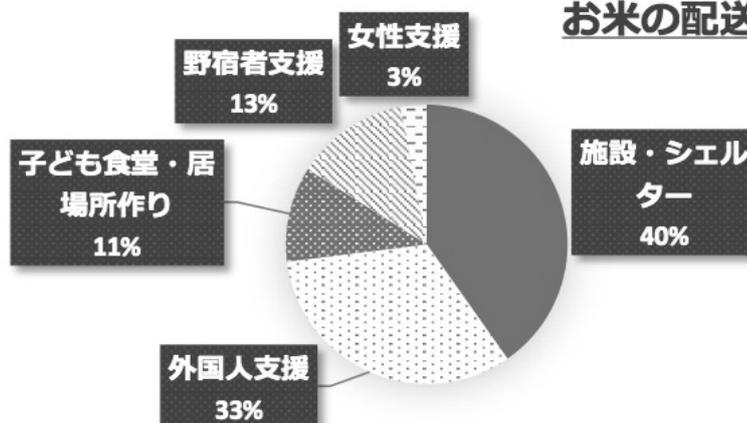


池上 哉美

お米の配送状況（2021年10月～2022年3月） 単位:Kg

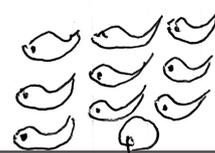
登録団体名(受け渡し先)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
施設・シエルター	かわさきキャンパラス・アクションポート	60	48	50	60	60	60	338
	サークルドア	90	90	90	90	80	70	510
	ホームとらむ	10	10	10		10	10	50
	ぼたらか		20	20			20	60
	みのわマック	80	80	80	80	80	80	480
	友愛会	120	100	80	100	80	100	580
外国人支援	カトリック東京国際センター	100	100	50			50	300
	北関東医療相談会	500	200		200	200		1,100
	難民支援協会	20	20	40	40	20	60	200
	反貧困ネットワーク	20				20		40
子ども食堂・居場所作り	足立インターナショナル・アカデミー		10			10	10	30
	荒川ボランティアセンター		50		30	30		110
	あらにん会		5	5				10
	子どもの居場所イン町屋	10	10	10	10	10	10	60
	タヴェルナ～小さな食堂～	10		10				20
	ハーフタイム	5	5					10
	東日暮里子ども食堂	17	15	10		20		62
	みやまえの家	80		50	40	40	40	250
野宿者支援	浅草聖ヨハネ教会					40		40
	足立野宿者支援の会さくら	50		50	50	50	50	250
	大田幸陽会	15	15	15	15	15	15	90
	山谷夜廻りの会				30	30	30	90
	末日聖徒イエスキリスト教会	30	30	30	30	30	30	180
女性支援	女性ネットSaya-Saya	30	20	20	20	20	30	140
	BONDプロジェクト			10				10
合計	1247	828	630	795	845	665	5,010	

お米の配送先



お米のカンパ受取&購入状況

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
842	2,427	1,626	583	211	959	6,648



	収入		支出
寄付金	4,204,452	家賃	1,320,000
年会費	525,000	車両・事務所共同利用分掛	240,000
毎日新聞社助成金	800,000	電気代	45,853
パルシステム助成金	200,000	配送・運搬	12,488
冊子あじいる売上	81,770	作業日経費	111,431
あうんからの委託費	98,219	事務消耗品	79,277
バザー売上	5,150	ボランティア保険料	6,800
受取利息	18	米 仕入代	1,375,000
		医療相談会 炊き出し経費	175,267
		医療相談会 交通費	40,350
		医療相談会 薬代等	318,527
		生活支援金	63,820
		雑費	66,786
		旅費交通費	68,714
		通信費	84,918
		ニュースレター印刷代	70,460
		ゴゴヤシ会への寄付	300,000
		大人食堂 食事代等	39,422
収入合計	5,914,609	支出合計	4,419,113
前年度繰越金	7,368,181	次年度繰越金	8,863,677
	13,282,790		13,282,790

上記の通り、間違いありません。

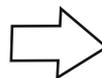
会計 荒川茂子

カンパのお願い

一般社団法人あじいるの活動にご理解・ご支援いただきありがとうございます。引き続きカンパ・ボランティアをしてくださる方を募集しています。

● お米

- 3年以内のもの
- 玄米・白米 ともに大丈夫です
- 外国のお米（長粒米）はご遠慮ください
- 大口（100kg 以上）の場合は事前にご連絡ください

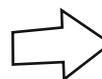


お送りいただく際のお願い

お送りいただく際の送料は
ご負担いただいております。
ご了承ください。

● 食品

- 賞味期限が2ヶ月以上残っているもの
- 日持ちするもの
（レトルト食品・缶詰・調味料・乾麺・非常用食品など）



✕ 受け取ることができません！

- ✕ 賞味期限が2ヶ月残っていないもの
- ✕ 開封後の食品
- ✕ 生鮮食品
- ✕ 商品説明が外国語のみのもの

● 必要物資

寝袋、毛布、カイロ、新品の日用品（靴下・男性用下着・タオル・カミソリ・歯ブラシ・石けん）、テレホンカード（携帯電話を持たない方の連絡用）、未使用切手、湿布薬、小型ラジオ

● 賛助会費

一口：3000円（年間） 現金カンパも随時受付中

お米や食品を備蓄する低温冷蔵庫の維持費、食品や物資運搬用の車輻費・燃料費、医薬品や備品に必要な経費、共同炊事の経費、医療機関や福祉事務所への交通費、出版物の印刷費、事務所の維持費などに使わせていただきます

【振込先】

- 銀行振込
ゆうちょ銀行 ○一九店
□座名義：一般社団法人あじいる
当座預金：0673914

- 郵便振替
□座番号：00110-0-673914
□座名義：一般社団法人あじいる

● ボランティア

生活や健康状態の相談会、夜間パトロール、登録団体への食料の配送作業、イベントへの出店など、たくさんの人の手が必要です。社会人だけでなく、学生など、どなたでも参加いただけます。初めて参加される場合には、事前にご連絡ください。

【送付・問合わせ先】

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-36-10 あうん気付 一般社団法人あじいる

TEL：03-5850-4863

FAX：03-5850-4864

Email: aji_iru@yahoo.co.jp

ホームページ

<https://agile.or.jp>

